令和 7 年度　　園評価書

園番号　19　　園名　高松こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
健やかに伸び伸びと育つ	自分らしく表現する	褒めたり、認められたりすることを積み重ねていくことで、自信をもって生活や遊びに取り組めるようにしている	一人一人の遊びの過程を励ましたり、具体的に認めたりしながら見守ることで、意欲をもって遊んだり、表現したりする姿が見られている。今後も日々の子どもの姿や頑張りを見逃さずに捉え、職員間で共有し合ったり、他児にも発信する声かけをしたりしていく	A	A	・保育者が、一人一人に温かいまなざしを向けてくれている。だから子ども達がいきいきと活動している。自信をもって堂々と舞台で表現遊びをしている姿を見て、小さい子も「やりたいな」に繋がっていく。これが園を豊かにしていくのだと思った	日々の子どもの姿を職員間で伝え合いながら、子どもの姿や頑張りを見逃さずに捉え、全職員で認めたり他児にも発信し、友達からも認めてもらったりすることで自信に繋がるようにしていく
		子どもが安心して、思いや感じたことを自分なりに表現できるように関わっている	安心して思いを表現できるよう、一人一人との関わりを大切にし、子どもの気持ちを丁寧に受け止めている。言葉での表現が難しい子に対しても表情や仕草、行動から思いを汲み取り関わることで安心して思いを表現している。引き続き職員間での語り合いや情報共有を通して共通理解を深め、子ども一人一人に応じた関わりを大切にしていく	A	A		今後も些細な表情や仕草、行動を丁寧に捉え、一人一人に配慮した対応を心がける。そのために職員間での話し合いや情報共有を通して共通理解を深めていくことを引き続き大切にしていく
		友達と関わって遊ぶ中で、相手の思いにも気付けるように関わっている	保育者が一人一人の遊びに丁寧に関わっているからこそ、タイミング良く仲立ちをすることができている。その積み重ねが思いを伝え合う姿や相手の思いに気づこうとする姿に繋がってきている	B	B		言葉では伝えられない思いや、年齢、発達、個々に応じた伝え方をエピソードを通して意見交換し様々な伝え方、対応方法を学んでいく

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の思いを肯定的に捉え、共感し受け止める中で、求めていることや叶えたいことに気付き関わっている	職員間で語り合う機会を増やし、子どもの姿や環境作りについて情報共有している。また、「やってみよう」とする子どもの姿や思いを肯定的に受け止め、どう実現していくか一緒に考えて願いとねらいをもち関わっている	A	A	＜安全管理＞ ・訓練の反省を職員みんなで話し合うこと、そしてその反省を次に繋げていることが素晴らしいし、それが必要だと感じる ・不審者対応のブザーはあるか。宮竹小学校は2001年、大阪教育大学附属池田小学校で発生した無差別殺傷事件を受けて各クラスに防犯ブザーを設置したようだが、そのことについて職員が知らず、引継ぎがされていなかった。今年度、児童がブザーを押してしまったことからその存在がわかった。不審者は、送迎時に紛れて侵入したりする。伝達もままならない場合があると思うので、ブザーが有効的だと思う ＜食育＞ ・月に1回の食育の時間で、栄養士から教えてもらったことを、帰宅後母に伝えることがある。また、子どもに人気のレシピも置いてくれているので、それらが保護者と子どもの会話をするきっかけとなっている ＜特別支援＞ ・静岡市は支援級を増やし、インクルーシブ教育を行っていない。学校では排除の思考が働いていて、迷惑をかけるから支援級に行かせようとする。園では、インクルーシブ教育ができていているため、そのままの気持ちをもって就学してほしい。 ・園では送迎の時間など、子どもと保護者が触れ合える時間が学校より多く、様々な子どもがいることがわかっている。今年度の年長の保護者は、親子遠足で保護者間の距離がぐっと縮まり、仲良くなれた。支援が必要な子の保護者がラインで思いをつぶやくこともある ＜保護者支援＞ ・学校にもいじめを認めない、恫喝してくる等、様々な保護者がいるが、生活することが大変で余裕がないのであろうと、わかりたいという思いを伝えたいと思っているがなかなか聞いてもらえないことが現状。幼小の連携を大切にしていきたい ＜小学校との連携＞ ・こんなに連携が深まっている園と小学校は少ない。繋がりの大切さが静岡市全体に広がっていくとよい。次年度は職員の”交換留学”のようなことをやれるとよい ＜地域との連携＞ 地域の人材を活かすよう、引き続きコミュニケーションを取っていきましょう	引き続き語り合いの場を活用して子どもの姿を共有し、発達の連続性を理解して肯定的に受け止め、保育者の願いや子どもへの関わり方、環境作りについての学びを全職員で深めていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の家庭状況、在園状況に応じて子どもが安心して過ごすことができるように丁寧に関わっている	一人一人の家庭状況や子どもの様子等について、担任だけでなく全職員で情報共有をし、連携を図り丁寧に関わっている。今後も必要に応じて保育SWに相談しながら、子どもがさらに安心して過ごせる環境を作っていきたい	A	A		今後も職員間で情報を共有したり、必要に応じて保育SWや関係機関に相談したりしながら、連携を取り合って子どもが安心して過ごせる環境を作っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが興味関心をもってやってみたことが、「もっと」に繋がるための保育教諭の関りや環境構成を工夫している	保育について語り合う機会が増え、子どもの興味関心をもとに「もっとやりたい」に繋がる関わりや環境構成を工夫している。わくわくボードでは保育室の環境についても検討するようにしたことで、保育室と園庭の遊びの繋がりが少しずつ見られている	A	A		わくわくボードで保育室と園庭の遊びの繋がりを考え、園庭環境を改善する曜日を決めた。今後も子どもの姿から主体的に遊び込める環境を構成を工夫していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定をした訓練を実施し、課題や改善策を明確にして次の訓練に活かす	分掌を中心に様々なことを想定して訓練を実施している。 又、予告なしの訓練を行い避難場所や経路等を職員が臨機応変に考え、行動できるようにした。訓練前には予想されることを出し合い、訓練後すぐに反省を行い、課題から改善策を導き、次の訓練に活かしている	A	A		様々な想定の訓練や、予告なしの訓練を引き続き行い、職員一人一人が考えて行動できるようにしていく。又、訓練の反省から講習の内容を考え、実施することで、職員一人一人の防災意識を高めていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	発達に応じた教材を使用して食育活動を行い、食への興味関心を広げていく	年齢に応じた内容や方法で栄養士が毎月食育を行い、その都度玄関に保護者向けの掲示を行った。また、保育者や栄養士による給食時の子どもへの声かけや楽しく食べる雰囲気作り等が行われ、偏食や少食な子も食への関心を少しずつ広げられている	B	B		毎月の食育の実施に加え、玄関の掲示について保護者への声かけを職員が積極的に行い、家庭での食育につなげる。また、調理員も直接子どもの食べている様子を見る機会を設け、交流する時間を作ることで、更に子どもの食への関心を広げていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース会議を月１回実施する中で職員間で支援方法を検討し、同じ手立てで関わる	担当以外の職員も会議に参加して、支援児の表れや対応について共有し、どの職員も同じ手立てで関わることができている。支援方法を全体で検討する機会が少なかったので増やしていきたい	B	B		会議にて支援方法を皆で考えていく機会を増やし各職員が支援児について知ろうとする意識を高め、共通理解をし、日々の関わりに活かしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当者が分掌を責任をもって取り組むと共に、職員が協力し合える体制ができている	分掌ごとに協力的に仕事を進め、進捗状況や役割を共有する体制が定着し、担当以外の職員も協力して進めることができた。一方で、分掌間の進捗の差や発信方法、負担の偏り等に課題が残る	B	B		分掌を超えて役割を分担し、進捗をわかりやすく共有しながら職員一人一人が自分事として積極的に協力し、見通しをもって円滑な運営を目指す
6 研　修	(1)研修体制の充実	子どもの「わくわく」を見取り関るために、日々の手立てを行い、園内研修を進め、学びを教育保育に活かしている	限られた時間を有効活用したり、様々な職種の職員が参加できるように意識したりしたことで、園全体で対話的に語り合う園内研修を行うことができた。その中で子どもの姿をもとに手立てが行えたかどうか、自身の関わりの振り返りを行い、明日への保育に繋げている	A	A		今年度の園内研修から、さらに一歩先へ進めるために、保育実践を文章化すると共に、子どもの姿や保育者の関わり、環境について視点をもって考察することを意識して行っていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもと一緒に遊ぶ中で、一人一人の「わくわく」している姿を捉え、環境構成をしている	保育者も一緒に遊びを楽しむ中で、子どもがやりたいと思っていることや、楽しんでいることをつぶやきや目線などから見逃さずに読み取ろうと意識して関わっている。その子どもの姿について職員間で語り合うことで、わくわくにつながる過程や実践を共有し、様々な視点から子どもの姿や遊びを捉え、願いやねらいをもって環境構成を行うことができた	A	A		今後も保育者も一緒に遊びを楽しむ中で、一人一人の興味関心を捉え、子どもの思いに寄り添いながら環境を構成していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	コドモンを活用して子どもの姿を発信したり、保護者の思いを傾聴したりしながら子どもの育ちを共有している	日々のコミュニケーションを大切にし、保護者と信頼関係を築いていくと共に、コドモンやわくわくボードに写真を活用することで遊びの様子や子どもの成長をより具体的に伝え、育ちを共有していくことができた	B	B		引き続き写真を活用してドキュメンテーションの配信をしたり、わくわくボードに添付してある写真のエピソードを伝えたりすることで、保護者と子どもの育ちを共有していきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣校や近隣園と連携を取り、職員同士、子ども同士の交流を行う	近隣の小・中・高校の様々な年齢の生徒と交流をする機会をもつことができた。特に宮竹小学校とは、職員が互いの保育や授業を参観し、子どもの姿や取り組みを見合ったり、支援が必要な家庭の情報を共有したり、連携を取ることができているため、今後も継続させていきたい	B	A		子ども達が学校の生徒と触れ合いながら交流する機会を今後も継続していく。また、様々な職員が近隣園の保育や近隣校の授業を参観できるように計画し、学びを自園の保育に活かせるようにしていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の資源を教育保育に活かす	登呂遺跡での田植えや稲刈り体験、海岸で見つけた流木や石等の資源を園での遊びに取り入れ、保育に活かしている。 又、散歩マップに写真を活用したことで地域の情報を可視化できている。今後は、保護者からも情報を聞き出し散歩マップに反映させ、保育に繋げていきたい	B	B		引き続き散歩マップへの記入を行い習慣化していく。また、保護者まで巻き込んだ散歩マップにし、園と家庭で地域の情報を共有し合い連携を深めていきたい